

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	栃木県芳賀郡二宮町立久下田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	2	3	1	16	26
児童数	66	97	62	83	72	84	4	468	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を目指して ~ 国語科・算数科の指導の工夫改善 ~
--------------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・国語 学力テストなどの結果から、全体に点数が低く、特に読解力が落ちていた。学習の基本となる読む・書く力をつけることが学力向上につながると考えた。</li> <li>・全学年・算数 上位の子と下位の子の差が大きく、計算力は特に差が目立った。数学的な考え方は全体に劣り、問題を読み取ることができない子も多かった。少人数指導や習熟度別学習を取り入れた授業が効果的と考えた。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 研究内容の共通理解・研究に即した授業実践 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究組織作り</li> <li>・研究主題、目指す児童像の検討</li> <li>・研究内容の具体的な検討</li> <li>・研究内容をふまえた授業実践</li> <li>・研究授業</li> </ul> 研究の内容・方法 <b>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発</b> ア 基礎基本をおさえた指導法の工夫 (ア) 学び方の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>・低中高ブロック別国語科「学びのしおり」・算数科「学び方カード」の作成</li> <li>・話し合いの決まりの活用 学習内容の定着を図るためのルール(ノートの取り方・話の聞き方・発表の仕方)</li> </ul> (イ) 伝え合う力を高める指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くことの系統表」の作成</li> </ul> (ウ) 自力解決のための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で選べるヒントカードの用意</li> </ul> (エ) 習熟度別学習時に使用するプリントの工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりコース・しっかりコース・たっぷりコースの実態にあった学習プリントの作成</li> </ul> イ 学習過程の工夫 (ア) 国語 ・ビデオ視聴・ゲストティーチャーの話・インタビューなどにより、単元全体への興味づけや考えを広げる手だて
--------	---

- ・ 1時間の学習の流れを工夫する。  
 つかむ 考える 深める 広める
- (1)算数 ・ 単元を見直し、1時間の学習の流れを考える。  
 (振り返る )つかむ 考える 練習合う まとめる

**(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善**

**ア 指導方法の工夫**

**(7)国語科**

- ・ 学習課題に応じて
 

一斉	自己学習	自己学習	一斉	一斉
一斉	自己学習	グループ	自己学習	
一斉	グループ	一斉		

のような形態で一人一人に自分の考えをもたせる。

- ・ 発表における場の設定 ----- 同学年・異学年への発表の仕方

**(1)算数科**

- ・ 少人数指導の実施 ( 4 . 5 . 6 年で、1クラスを機械的に2つに分けて行う )
- ・ 習熟度別学習の実施 ( 4 . 5 . 6 年で、1クラスを2段階に分けたり、学年を3段階に分けたりして実施 )
- ・ グループ別学習の工夫 ( 1 . 2 . 3 年で、TTなしの場合 )
- ・ 算数的活動を積極的に取り入れた授業の工夫
- ・ 習熟度別学習に適した単元を検討し、年計に位置づける。

**イ 教科の特性を生かした指導体制の改善**

- (7)国語科におけるTT活用の工夫 ( 5 . 6 年 )      グループでの話し合い

- (1)算数科におけるTT活用の工夫 ( 4 . 5 . 6 年 )

- ・ 単元の流れ
 

一斉	少人数	一斉	
一斉	習熟度別	一斉	習熟度別
- など、一単元の中での効果的な形態の工夫

**(3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善**

**ア ねらいを明確にした授業の展開**

- ・ 本時のめあてを書かせ、本時のゴールを知らせることで活動意欲を高める。

**イ 評価規準の見直し**

**ウ 自己評価を生かした指導**

- ・ 学習カードによる1時間ごとの自己評価

**(4) その他の取組**

**ア 朝の学習の工夫 ( 20分 )**

- ・ 読書タイム                      月曜日・木曜日
- ・ 漢字練習                        火曜日
- ・ 100ます計算                  水曜日、校内放送を利用して一斉に実施

**イ 日常の指導**

- ・ 朝の会や帰りの会での1分間スピーチ
- ・ 学年に応じた日記指導

**ウ 学力アップタイムの実施**

- ・ 火曜日の放課後、3年生以上のクラスで実施
- ・ 授業では理解が不足のところやさらにむずかしい内容に取り組むなど

**エ 家庭学習の工夫**

- ・ 一人学習ができるようなプリントの作成

**オ 教師の専門性を生かした交換授業や教科担任制の工夫**

- ・ 高学年の理科・音楽・家庭・体育を学年担任と無担任で担当
- ・ 中学年は、音楽・図工・体育で実施

**カ 日課表の工夫**

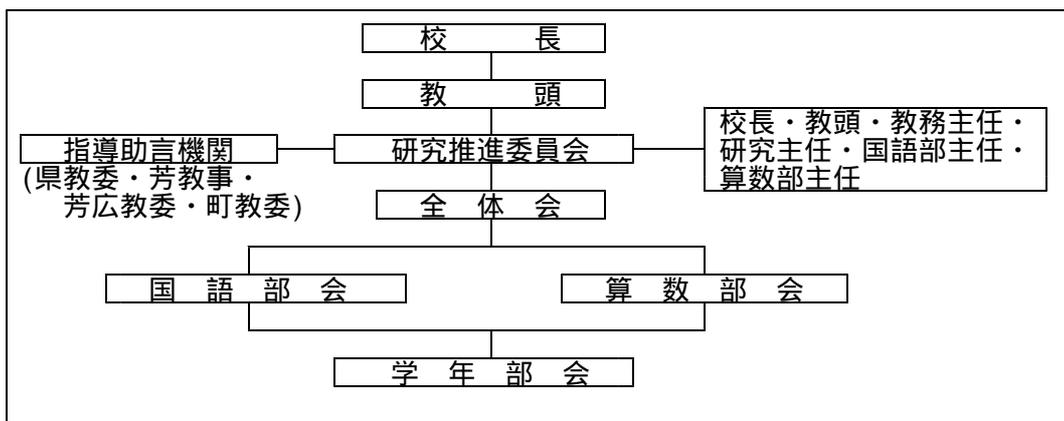
- ・ 1 . 2 校時の間、3 . 4 校時の間はノーチャイムとし、授業の内容により休み時間を工夫する。

**キ 保護者への啓発**

- ・ 学校だよりで「学力向上フロンティア事業」の説明
- ・ 習熟度別学習を実施するときには、保護者の理解を得、プレテストと単元の説明を書いた手紙を持たせ、親子でコースを決める。

平成 16 年度	<p>テーマ 研究内容に即した授業実践</p> <p>研究の見通し ・授業実践による研究内容の深化 ・研究授業による話し合いと共通理解 ・研究の成果の確認 ・今後の課題の話し合い</p> <p>研究の内容・方法 15年度の研究内容を引き続き研究する。</p>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



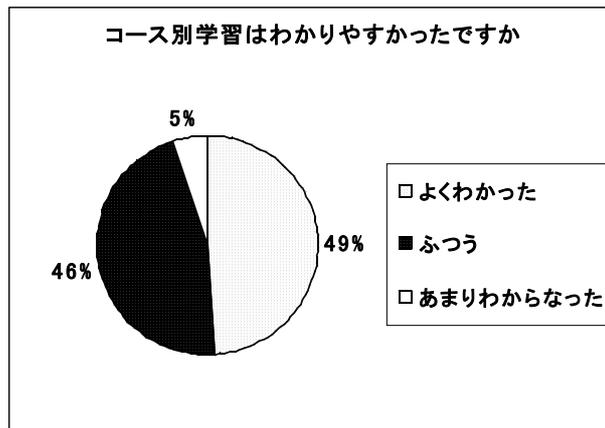
### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

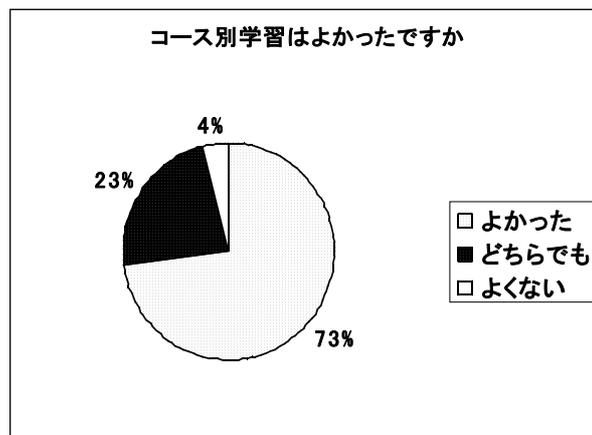
<p>個に応じた指導のための教材開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのしおりや学び方カードの活用により、学習内容や何をすることが分かるようになり、教師側の指示も少なくなった。</li> <li>・話型やハンドサインが定着し、意思表示ができるようになったり、文章化して発表するようになってきた。</li> <li>・国語科では、「つかむ」段階での単元全体・教材文への興味づけを図ることができた。           <ul style="list-style-type: none"> <li>2年「サンゴの海の生きものたち」 ----- サンゴの海に関する図書のブックトーク</li> <li>5年「わらくつの中の神様」 ----- 雪国の生活のビデオ視聴、わらくつの実物提示</li> <li>6年「伝えたい何かを見つけよう」 ----- ゲストティーチャーからの話</li> </ul> </li> <li>・パソコンを活用し、視覚的に訴える授業を展開したところ、わかりやすいという声が多く聞かれた。</li> <li>・算数科では、習熟度別学習に使用するプリントを工夫し、コースのめあてにあったものを作成した。</li> </ul> <p>指導方法・指導體制の工夫改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科では、TTの活用により児童一人一人の学習意欲が高められた。           <ul style="list-style-type: none"> <li>5年「わらくつの中の神様」 --- 一人読みや表現読みの段階での個別指導</li> <li>6年「伝えたい何かを見つけよう」 -- グループでの話し合いや調べ学習、発表の練習での個別指導</li> </ul> </li> <li>・国語科では、支援となるヒントカードやワークシート、習熟度に応じた漢字プリントを用意することで、児童が自ら学ぼうとする満足感が与えられた。</li> <li>・担任のみが児童に指導するのではなく、チームを組んで指導するので、指導内容の共通理解が図られ、指導に生かすことができた。</li> <li>・算数科で習熟度別学習を行った単元では、事前テストを通して学校・保護者が連携し、適切なコース分けを行い学習を進めることができた。その結果、児童は学習内容をよく理解し、テストの点数も高く成果が見られた。</li> </ul>
--

- ・学年間習熟度別学習では、習熟過程が同程度の児童を指導するため、指導者は教材研究が容易であり、個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。一方で、他クラスの個別指導を要する児童に指導する場合、教師・児童とも互いの実態が分からず指導に窮する場面も見られた。
- ・少人数指導は、教師や児童とのコミュニケーションの機会を増やすきっかけとなり、分からないところをそのままにする児童があまり見られなくなった。
- ・習熟度別学習実施後、児童・保護者にアンケートを実施したところ、両者ともよかったという意見が大半を占め、習熟度別学習に対する理解が深まった。

グラフ1 習熟度別学習に対する児童へのアンケート



グラフ2 習熟度別学習に対する保護者へのアンケート



- 学力の評価を生かした指導の改善について
- ・国語科では本時のねらいを明確にし、「今日は、・・・ができたらよい。」ということを表示することで、学習のゴールがはっきりと見えてくるようになった。また、児童自身がねらいを修正しながら学習するようになり、自己評価もしやすく、意欲が持続するようになった。
  - ・算数科では、単元ごとに学習カードを持たせた。1時間ごとに自己評価を行い、分からないところが確認できた。(図1参照)

- その他の取組について
- ・国語科では言語活動のスキルアップをねらって、毎日の教科書活用の音読・朝や帰りの会のスピーチ・家庭学習の日記指導を実施し効果が見られた。
  - ・朝の学習では、読書タイム・漢字練習・詩の暗唱を取り入れ、一人で学習するのに有効だった。
  - ・毎週水曜日に全校体制で100ます計算を実施してきた結果、表現・処理の比重の大きい単元では、平均点が上がるなど成果が見られた。また、学期末の計算テストでも、学期始めと比較するとどの学年も向上が見られた。

グラフ3 各学年での計算テストの平均点の変化

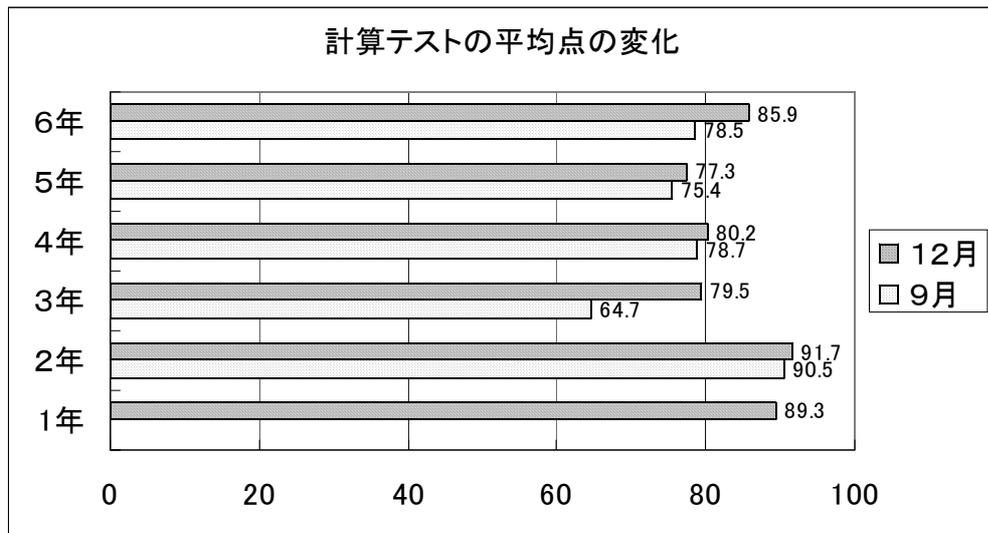


図1 第6学年「単位量あたりの大きさ」での児童の学習カード

時	学習内容	単位量あたり	わかったこと・公式など	評価の観点	評価
1	こみくあい		こみくあいの表し方や比べ方を積極的に考えました。	こみくあいの表し方や比べ方を積極的に考えましたか。	● ○ △
2	単位量の考え方	1人あたり 1m <sup>2</sup> あたり	面積÷人数 人数÷面積	こみくあいを比べるときは、単位量あたりの大きさを比べるとよいことがわかりましたか。	● ○ △
3	ベンキのぬれる量	1m <sup>2</sup> あたり 1人あたり	式などは分かったけど、考え方がむずかしかったです。こちらのほうがわかりました。	よくぬれるベンキはどちらか比べるときにも、単位量あたりの大きさを比べられることがわかりましたか。	◎ ● △
4	人口密度 単位量あたり	1kgあたり	人口密度 いろいろな車などの人口 人口÷面積 密度を求めるのでもよくわかりました。	人口密度の意味や求め方がわかり、人口密度を求めることができましたか。	● ○ △
5	ガソリン量と自動車の走る距離	1人あたり	問題を正確に読み取ることができ、単位量あたりの考え方を活用して問題を解くことができました。	単位量あたりの大きさの考えを用いて考えることができましたか。	● ○ △
6	練習	1冊あたり 1冊あたり	問題を正確に読み取ることができ、単位量あたりの考え方を活用して問題を解くことができました。	単位量あたりの大きさの問題を正確に解くことができましたか。	◎ ● △
7	速さの数値化	1分あたり 1分あたり 1分あたり	より速い2通りの速さ 1kmあたりの時間 1分あたりの速さ	速さを単位量あたりの大きさの考えをもとに数値化して比べることができましたか。	● ○ △
8	速さの公式	1時間あたり 1分あたり 1秒あたり	速さ=道のり÷時間 速さを表すには、時間あたりの速さ 時間×速さ=道のり	速さの公式や時速、分速、秒速の意味がわかりましたか。	● ○ △
9	道のりを求める	1時間あたり	道のり=時速×時間 速さを求めたいのが答えがわかった。	道のりの公式がわかり、道のりを求めることができましたか。	● ○ △
10	時間を求める	1時間あたり	時間=道のり÷速さ 公式で表された。	時間の求め方がわかり、時間を求めることができましたか。	● ○ △
11	練習 まとめ		図の比べることが解けるようになったので練習がわかるようになりました。	速さや単位量あたりの大きさの問題を、正確に解くことができましたか。	◎ ● △

2. 今後の課題

- ・国語科では、聞く力は育ってきたが、話す力は弱いところがある。相手意識をはっきりもたせるとともに、伝える工夫を身に付けさせることが大切である。
- ・言語環境を整え、日常生活の中で児童の言語意識が高められるようにしていきたい。
- ・算数科での少人数指導や習熟度別学習をより効果的に実施するため、適切な単元を分析し、年間計画を見直す。
- ・算数科において、授業における思考活動をうながす教材教具の開発・発問の工夫が必要である。

## 学力等把握のための学校としての取組

<p>計算確認テスト</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 計算力の向上を図った結果を見るため実施。</li><li>・ 学期の最初と最後に同じ計算テストを行う。</li></ul> <p>基本的な生活習慣のアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 規則正しい生活を送っているかを調べ、学習への意欲を見る。</li><li>・ 朝、帰宅後、夜の様子を調べる。</li><li>・ 6月、12月に実施。</li></ul> <p>学習に関するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 国語と算数においていろいろな取り組みをしてきた結果、児童はどう感じているかを調べる。</li><li>・ 国語と算数についてすきか、T Tの授業や少人数指導や習熟度別学習はどうだったか、など。</li><li>・ 7月、12月に実施。</li></ul> <p>学力テスト</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童の学力の実態を把握するため。</li><li>・ 教研式標準学力検査 CRT</li><li>・ 1月末に実施。</li></ul>
---

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 4年算数科研究授業の開催 平成15年10月27日(月) 学年習熟度別学習「小数」3クラスを3段階5クラスに分けた久下田中学校の教員にも参加していただき、小学校での取組を理解してもらった。</li><li>・ 芳賀教育研究所冊子「個に応じた学習指導の実際」に、久下田小学校での習熟度別学習の取組を載せていただいた。</li></ul>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無